

栃木県生協連・2011年度11月定例報告

2011年11月23日
栃木県連 専務 鎌柄

(1) 10月活動日誌

日付	曜日	日誌
10月2日	日	うつのみや食育フェア
10月3日	月	MCA無線通信訓練
10月4日	火	県連くらし部会、消費者ネットワーク学習会、
10月5日	水	消費者ネットワーク野木町訪問
10月6日	木	消費者ネットワーク市貝町訪問、福祉ネットワーク夢のみずうみ村見学会
10月7日	金	消費者ネットワーク芳賀町訪問・上三川町訪問
10月8日	土	県エコ・もりフェア
10月9日	日	県エコ・もりフェア
10月12日	水	職域部会
10月13日	木	国際協同組合年ワーキンググループ会議
10月17日	月	TPP阻止実行委員会
10月18日	火	ふれあいお茶会、栃木放送番組審議会、食の安全ネットワーク世話人会
10月19日	水	中央地連都県連責任者会議
10月20日	木	食の安全ネット地域フォーラム(栃木)、消費者ネットワーク幹事会
10月21日	金	消費者ネット那須町訪問、労金栃木県本部10周年
10月24日	月	県連監査、消費者ネット壬生町訪問
10月25日	火	消費者ネットワーク那珂川町訪問、BCP策定セミナー
10月26日	水	消費者ネットワーク高根沢町訪問
10月27日	木	県連理事会
10月28日	金	県エコ農業とちぎ推進会議
10月31日	月	とちぎ暮らし応援会、ECOテック説明会

※東日本大震災を受けて、まとめは概況とします。

(2) 10月活動の概況

(福島県から避難されている方々へのふれあいお茶会)

10月18日ふれあいコープの特養みどり、福島県から宇都宮市内に避難されている方々に対する「ふれあいお茶会」が、9月に続いて開催された。県連、とちぎコープ、よつ葉生協、ふれあいコープ等に対応され、今回は2の方が参加された。

10月31日ぽ・ぽ・ら主催のとちぎ暮らし応援会の総会が開催された。福島県の担当の方が4名、栃木県に常駐され避難者の支援に当たられているが、広域に避難されている福島県民の方々を4名でカバーすることはできない。新潟県中越地震の事例報告からも様々な切り口での支援、広域での支援が必要とされている。震災から8ヶ月を経て、一層栃木県内での支援のネットワークの必要性が参加者に受け止められた。

(県連理事会及び部会運営)

10月27日県連理事会が開催され、第3～4四半期(1月頃まで)の課題が、県連運営、ネットワーク、行政・他団体との関係で確認された。国際協同組合同年栃木県実行委員会の関係では、県連の負担金として10万円の拠出が確認された。

会員報告では、上期3地域生協は増収増益傾向にあるものの、職域・大学等は震災で商品の品揃えの困難さや、その後のガソリン不足、節電の関係でも職場・大学での事業上の制約の中で大きな影響を受けている。

10月26日富士重工宇都宮生協の臨時総代会が開催され、今年末での生協解散と福利厚生部門等を受け持つ子会社への事業譲渡が確認された。

10月2日暮らし部会では、第6回うつのみや食育フェアへの出展を行った。共通テーマは「守ろう 地産地消! 守ろう とちぎ産」とした。メイン舞台に近いこともあり、例年を上回る来場者で展示の説明を聞きアンケートやクイズに取り組みされる市民の方々が多く、3地域生協の理事さん中心に大変忙しく対応がされた。

4日の暮らし部会はECOテックへの出展内容や活動交流が行われた。

6日福祉ネットワークでは、今年浦安市に開設された「夢のみずうみ村」の見学会が9名、1連合会、3会員で行われた。夢のみずうみ村のデイサービスでは、100を超える1日のメニューがあり、利用者が自ら選んで1日のプログラムができ、施設もバリアフリーで、多くの見学者があるという。今後の在り方として、参考になったとの声が出されていた。

10月12日職域部会では、上期の事業交流と同時に店舗やチラシなどの自主供給(物販)の交流が行われた。今後の6県連研修への対応についても協議の上、取り組んでいく方向性が確認された。

(食の安全課題の関連)

10月20日とちぎ食の安全ネットワーク主催の地域フォーラムの1回目が、栃木市の栃木保健福祉センターで開催された。約80名の参加があり20名の保育を行った。茨城大学理学部の田内広教授は、「放射性物質と私たちの健康と暮らし」について分かりやすくお話をいただいた。食の安全ネットワークとして、それぞれ3地域生協の理事さんを主にグループで地区分担を決め、細部にわたって準備が進められた。当日の運営も大変スムーズに進んだ。11月は、高根沢、宇都宮の2会場を予定し、それぞれ準備が進められている。



(栃木市内で開催された地域フォーラム)

(消費者課題の関連)

10月～県内11町長への訪問活動がスタートした。5日真瀬宏子野木町長、6日入野正明市貝町長、7日豊田征夫芳賀町長、同日星野光利上三川町長、21日高久勝那

須町長、同日手塚功一塩谷町長、24日鈴木良男壬生町民生部長、25日大金伊一那珂川町長、26日高橋克法高根沢町長を訪問することができた。訪問する町の町民の方の協力を得て、ネットワークの関係者が参加し、4～7名で町長訪問を行った、それぞれの町長の消費者行政に対する考え方、また、担当の方の取り組み方など、町による違いなどを感じた。特に町民が身近な場で相談できる体制の整備、消費者被害防止の為の啓発上留意して貰いたい点など、率直に意見交換できたことは意味が大きかった。

昨年訪問した県内14市にはアンケートへの回答も来つつある。

11月26日の宇都宮市消費生活展への出展に向け、実行委員会が3回開催された。消費者トラブルアンケートを作成して、ネットワーク参加の各団体に配布し、集約を進めている。11月にまとめを行うこととしている。

(国際協同組合年)

1. 国際協同組合年栃木県実行委員会

9月22日JA栃木中央会と県生協連の呼びかけで、県内12団体からの推薦委員によって国際協同組合年栃木県実行委員が発足した。目的は「協同組合の価値や協同組合が現代社会で果たしている役割等について広く県民に認知されるよう取り組みを行う(実行委員会規約より抜粋)」、今年の12月に学習会、4月に協同組合まつり、来年12月に交流会を開催することとし、それらの準備を進めた。

代表にはJA栃木中央会の高橋会長、副代表に県森連の高村会長と生協連の竹内会長が互選された。事務局は、JA栃木中央会と生協連が分担する。

2. 国際協同組合年・ワーキングチーム会

10月13日国際協同組合年・ワーキングチーム会の3回目を開催した。参加の学校生協、生活クラブ生協の理念・歴史・現在の取り組みの報告がされ、書籍「協同組合の役割と未来」第1章の内橋克人著の部分を、事業団の田中専務からレポートがされた。

宇都宮大学農学部原田先生と神代先生(今回からご参加)からの助言を受け意見交換がされた。次回11月も2生協の報告と、「協同組合の役割と未来」の第2章の学習と意見交換を行うこととした。

(行政関係の動き)

10月8～9日県「エコ・もりフェア」がわくわくグランディ科学ランド(宇都宮市西川田)で開催された。県連に県温暖化対策室からはじめて販売での出展要請があり、とちぎコープとよつ葉生協の協力を得て、2つのテントで生協のお知らせを兼ねて出展がされた。ファミリー層の多くの来場者が来られ、生協のコーナーにも多くの方がアンケートや販売を利用された。

(他団体との連携)

10月17日TPP阻止実行委員会が開催され、20日の県民集会を3千名規模で成功させることが確認された。20日には、マロニエプラザで1月31日に続いている県民集会となった。連帯の挨拶を竹内会長が行った。講演を交えて集会は、3千名以上の参加で生協連の関係も約40名規模の参加の協力をいただいた。

10月23日栃木市総合運動公園で開催された栃木協働まつりに、県生協連、とちぎコープ、よつ葉生協などが、子育てネットワークの一環で参加した。使用した子どもの服を組合員さんに提供いただき、それら提供したり、子どもたちに遊びと絵本の読み聞かせなど、来場者に楽しい企画が行われた。

(3) 11～1月の課題

1. 11～1月部会・委員会活動の推進
2. 11～1月ネットワーク活動（食の安全ネット全体会、消費者ネット全体会）
推進
3. 11月「食の安全地域フォーラム（学習会）」の準備と成功
4. 協同組合間連携による国際協同組合年に向けた推進「記念講演会」の成功
5. 栃木県生協内の国際協同組合年ワーキングチームの活動推進
6. 震災被災地・被災者への支援・ボランティア派遣

2011（平成23）年11月吉日

各 位

国際協同組合年栃木県実行委員会

代 表 高橋 一夫

（公 印 省 略）

国際協同組合年記念講演会のご案内

晩秋の候、関係の皆様におかれましては、益々ご清栄のことと拝察申し上げます。また、日頃より県内協同組合の取り組みへのご支援、9月22日第1回栃木県実行委員会の発足へのご協力を賜り心より御礼申し上げます。当実行委員会の最初の事業であり、2012年の国際協同組合年を考える機会となりますことから、本講演会への特段のご協力をお願い申し上げます。

現在の日本は、戦後60年余を経て、経済の長期不況と高齢化社会を迎え、国の進むべき方向が問われる時期を迎えております。また、日本の協同組合の立場からは、2009年賀川豊彦献身記念100年、今年は東日本大震災と復興に向けた課題、協同組合の今日的な役割など様々な課題があるものと考えております。

こうした時期に国際協同組合年栃木県実行委員会では、実行委員会参加組織の役職員・組合員、一般の方にも呼び掛け、今後の日本の在り方と協同組合の理念や役割を考える機会として、講演会を開催することと致しました。

講師として東京大学名誉教授の神野直彦氏にお願いし、快くご了解をいただくことができました。神野先生は、財政学をご専門とされ、総務省の地方財政審議会会長を務められ、『「分かち合い」の経済学』（岩波新書 2010）など、著書も多数にのぼります。

年末のお忙し折ですが、本講演会に多くの皆様にご参加いただけますようよろしくお願い申し上げます。

記

- (1) 日程 12月17日（土）13時開場、13時30分開演、16時00分閉会予定
- (2) 会場 とちぎ健康の森・講堂（栃木県宇都宮市駒生町3337-1）地図・別紙
- (3) 参加者 どなたでも参加いただけます。参加費は無料です。
- (4) 主催 国際協同組合年栃木県実行委員会
- (5) 内容予定

主催者挨拶

講 演

講師 東京大学 名誉教授 神野 直彦氏

演題 「日本の未来と協同組合の役割」

質疑

閉会